

# I 本時の展開（3/8）

|        |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                 |  |                                                                                                                                                              |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目標     | 増加の場面で、増えるといくつになるのか、数量の関係に着目して、数図ブロックを用いて考え、合併の場面との違いに気付くことができる。                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                 |  | 【思考力、判断力、表現力等】                                                                                                                                               |
| 本時について | 前時までに、クラス全体で、2つの数量を合わせること（合併）を数図ブロックの操作のイメージから「がっちゃん」という言葉で共有してきた。「がっちゃん」という言葉に慣れ親しみ、操作についても問題を解く度に行ってきた。そのため、本時では、場面が違っていても、前時のイメージから、合併と同じように操作をする子供がいるだろう。そこで、本時では、合併と増加の操作の違いにも目を向け、増加の場面や操作の違いに対して問い返すことにより、合併と増加の違いに気付くことができるようにする。 |                                                                                                                                                                                                                                 |  |                                                                                                                                                              |
|        | 〔学習活動〕<br>□ … 描定される子供の姿                                                                                                                                                                                                                   | 〔子供の意識の流れ〕<br>□ は数学的に表現した問題<br>□ は焦点化した問題                                                                                                                                                                                       |  | 〔支援〕<br>◎ … 本研究に向けた支援<br>○ … 資質・能力に向けた支援                                                                                                                     |
| 1      | 絵から場面を想像する活動を通して、本時のめあてをつかむ。<br><br>⑤<br><br>絵から数量や増加していることを捉え、問題を見いだす姿<br>A-(ア)                                                                                                                                                          | 島に4匹かえるがいるね。葉っぱには2匹いるね。島に飛んでこようとしてるよ。<br><br>（島にかえるが4ひきいます。そこへかえるが2ひき飛んできました。）かえるは何匹になりましたか。<br><br>数図ブロックを使ってたしかめよう。前のがっちゃんしたときみたいにしたらいかな。島に飛んでるから、右から左に行くのかな。                                                                 |  | ◎ … 絵を段階的に提示することにより、問題の状況をつかむことができるようにする。（dの問題）<br><br>◎ ○ 「島に飛んでいったらどうなるの。」と問い返すことにより、数量の関係に着目した「何匹になるのだろう。」という問いが生まれるようにする。                                |
| 2      | 数図ブロックを使って、かえるが何匹になるかを考える。<br><br>⑩<br><br>合併の場面を想起して、数図ブロックを動かす姿<br>B-(ア)                                                                                                                                                                | 「ふえるといくつになるか、ブロックをつかってかんがえよう」<br><br>前のがっちゃんと同じように、左と右から動かしてみよう。前は右と左から動かしたけど…。1つ1つ動かしてもいいのかな。<br><br>2つのブロックを動かしたら、6匹になったよ。前のがっちゃんとは動かし方がちがうな。                                                                                 |  | ○ 数図ブロックを操作する場を設定することにより、増加の場面を想像することができるようにする。<br><br>◎ ○ 合併の場面と同様に操作をしている子供に対しては、「両方飛んできたってことかな。」と問い返すことにより、問題場面に立ち返り、問題場面に合う操作はどうすればよいかを考えることができるようにする。   |
| 3      | いくつになったか、数図ブロックの操作を基に話し合う。<br><br>⑳<br><br>自他の考えや増加と合併の場面を比較しながら場面に合う操作を考える姿<br>B-(イ)                                                                                                                                                     | いろんな動かし方があるね。前の動かし方と違う人もいるね。前のがっちゃんみたいに動かしたらよくないのかな。<br><br>どっちのやり方も最後は同じだからいいと思うけど。絵に合う動かし方は、右だけ動かす方だと思ふよ。言葉も「合わせて」と「くする」で違うよ。<br><br>やっぱり前のがっちゃんとは違うね。言葉が変わるとやり方も変わるんだね。これは、増えるがっちゃんだね。<br><br>右のブロックを動かして、4匹に2匹増えると6匹になったね。  |  | ◎ ○ 数図ブロックの動かし方をペアで見せ合ったり、全体で手の動かし方を確かめたりすることにより、自他の考えを比較・検討することができるようにする。<br><br>◎ ○ 「前にしたのがっちゃんと違うけど、前にしたのがっちゃんではだめなの。」と問い返すことにより、場面に合った操作を考えることができるようにする。 |
| 4      | 適用問題を解き、本時の学習を振り返る。<br><br>⑩<br><br>花瓶に5本の花があります。3本いれると、何本になりますか。<br><br>日常生活の中で、増加の場面を見いだす姿<br>A-(ア)                                                                                                                                     | 花瓶の中の花は動かないから…。いれるってことは、3本を動かすから…。さっきと同じようにすればいいね。<br><br>右の数図ブロックを動かすんだね。「いれる」も「くる」も増えるといっしょだね。3本いれると8本になるね。<br><br>増えるがっちゃんとおわせるがっちゃんのちがいがわかったよ。増えるがっちゃんも、いろんな言葉があるんだね。他にもいろんな増えるがっちゃんがあるよ。<br><br>他にも増えるがっちゃんができるときを考えてみたいな。 |  | ○ 「どうして右のブロックを動かしたの。」と問い返すことにより、問題の状況や言葉に着目して説明することができるようにする。<br><br>◎ ○ 「他にもふえるがっちゃんのと違ってあるかな。」と問い返すことにより、違う場面でも使えるかもしれない問いが生まれるようにする。                      |